

暮らしに役立つ情報満載！

FP FPの家

住まいる
ニュース

2025 11 vol.180

今月の特集

安心して暮らせる
100年住宅の条件

人生100年時代を迎え、住まいにも長期的な視点が求められています。かつての日本家屋が何世代にもわたって受け継がれてきたように、現代の住宅も長く快適に暮らせる性能と設計が必要です。世代を超えて愛される住まいの条件とは何か、詳しく解説します。

受け継がれる住まいに
必要な性能とは

日本の伝統的な家屋は、丁寧な手入れを重ねながら何世代にもわたって受け継がれてきました。太い梁や柱といった確かな構造材、適切な換気を保つ工夫、そして時代に合わせて間取りを変えられる柔軟性。これらの知恵は、現代の住まいづくりにも通じるものがあります。

しかし現代の住宅は、わずか30年程度で建て替えられるケースも少なくありません。欧米諸国では住宅の平均寿命が60年から80年と言われる中、日本の住宅が短命である背景には、いくつかの要因があります。さらに近年、気候変動の影響により災害発生の頻度が増加し、住まいに求められる役割も大きく変化しています。記録的な豪雨、猛暑日の増加など、かつてない気象条件に耐えうる性能が必要とされているのです。

住宅の短寿命化の大きな要因の一つが、断熱性能の不足による結露や劣化です。日本は四季があり、夏は高温多湿、冬は乾燥して冷え込むという厳しい気候条件にあります。室内外の温度差が大きいこの環境では、適切な断熱と気密性能がなければ、壁の内部に結

露が発生し、構造材を腐食させてしまいます。見えない場所で進行する劣化は、住まいの寿命を大きく縮める原因となるのです。

100年住める家を実現するには、まず躯体を守る高い断熱・気密性能が不可欠です。加えて、家族構成やライフスタイルの変化に対応できる間取りの可変性、メンテナンスのしやすさ、そして定期的な点検を前提とした設計も重要な要素となります。これらすべてが揃ったとき、初めて世代を超えて住み継げる住まいが実現するのです。

経年劣化を最小限に抑える
「FPの家」の技術

長く快適に住み続けられる家を実現するために、「FPの家」では独自開発の「FPウレタン断熱パネル」を採用して

います。このパネルは経年による性能劣化がほとんどなく、高断熱・高气密性能を末長く維持できるのが大きな特徴です。一般的な繊維系断熱材は経年により性能が低下しますが、FPパネルの硬質ウレタンフォームは耐水性に優れており結露や湿気を寄せ付けず、躯体そのものの品質劣化も防ぎます。

新築時の性能を長期間保つことができるため、建てた時の快適さが続くのです。

「FPの家」が大切にしているのは「くらしといのちを守るため」の家づくり。高い断熱・気密性能は快適性だけでなく、災害時にも家族の安全を守るのももちろん、気候変動により増加する猛暑や厳冬でも室内環境を適切に保ちます。完全フルオーダーの注文住宅だからこそ、理想の暮らしと100年先を見据えた設計の両立が可能になるのです。



住まいの知恵袋

宅配ボックス



宅配ボックスは不在時でも荷物を受け取れる便利な設備として、新築住宅やマンションで標準装備化が進んでいます。戸建て住宅では据え置き型と壁埋め込み型があり、据え置き型は後付けも可能で設置の自

由度が高く、壁埋め込み型はすっきりとした外観を保てます。サイズは宅配便の箱が収まる中型から、大型荷物対応まで様々です。機能面では、電気錠や暗証番号錠のほか、スマートフォンと連携して配達通知を受け取れるタイプも登場しています。再配達の削減により配送業者の負担軽減にも貢献し、環境面でもメリットがあります。選ぶ際は設置場所の動線、荷物の受取頻度、セキュリティ性能を考慮し、ライフスタイルに合ったものを選びましょう。

お金の豆知識

教育訓練休暇給付金



2025年10月から新たにスタートした「教育訓練休暇給付金」。労働者が自発的に30日以上は無給休暇を取得してリスクリングや能力開発に取り組む際、賃金の50～80%程度が最大150日間支給される制度です。失業給付に相当する給付として訓練・休暇期間中の生活費を保障し、働きながら学び直しができる環境を整えます。

暮らしの1ポイント

文化の日

1946年に日本国憲法が公布された日を記念して制定された「文化の日」。「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨とし、この日には文化勲章の授与式が行われます。美術館や博物館で入館無料となる施設も多く、芸術や文化に触れる絶好の機会。秋晴れの穏やかな季節に、家族で文化施設を訪れてみてはいかがでしょうか。



できた！簡単DIY

空間を変える「フェイク梁」



天井に木製の梁があると、空間に温かみと立体感が生まれます。本格的な梁は構造的な制約がありますが、実はDIYで手軽に演出できる方法があります。それが「フェイク梁」です。作り方は意外と簡単で、突っ張り

棒を芯材として使い、周囲を軽量の発泡スチロールや発泡ウレタンで覆います。表面に木目調のシートやリメイクシートを貼れば、本物のような質感が再現できます。軽量素材を使うため天井への負担が少なく、賃貸住宅でも原状回復が可能です。フェイク梁にグリーンを這わせたり間接照明を組み合わせたりすることで、カフェのようなおしゃれな空間に変身します。週末のプチリフォームとして、ぜひチャレンジしてみてください。

おしえて！Dr.住まいる

11月のミニ大掃除

年末の大掃除を楽しむなら、11月のミニ大掃除がおすすめです。気温が穏やかで窓を開けて換気しやすく、油污れも落ちやすい気候です。窓ガラスや網戸、換気扇など時間のかかる場所を先に済ませておけば、年末は軽い掃除で済みます。少しずつ分散することで体力的な負担も減り、年末を余裕を持って迎えられるですよ。

